

Ⅲ 次の文章を読み、問いに答えなさい。

1977年8月、第11回中国共産党代表大会が開かれ、華国鋒が「政治報告」をおこなった。そのなかで彼は依然として継続革命論を「偉大な理論」と称賛し、党路線の中心は「毛主席の旗幟を掲げ守ること」と強調している。しかし同時に、革命と建設の新たな段階に入ったとの認識に立ち、「第1次文化大革命の終了」を宣言し、「4つの近代化建設」を掲げた。ここでの華国鋒の主張は、まさに彼が毛沢東の威信に依拠したために毛の遺産を背負いながら、同時に混乱した経済・社会、そしてむろん政治の混乱を建て直さねばならないというディレンマを物語っていたのである。他方、鄧小平の戦略は極めて明確であった。政治闘争に明け暮れる雰囲気をはたき一掃して経済再建、経済発展に力を集中するかであった。そのためには、文革路線、毛沢東路線さえ事実上、否定してもかまわない、それを積極的に支持するグループを排除しなければならないという決意だったのだろうか。もちろんできる限り政治混乱を起こさないで「巧くやる」ことが大切だという前提であった。

(天児慧『巨龍の胎動：毛沢東 VS 鄧小平』より、一部改変)

問い 「第1次文化大革命」の経緯を述べた上で、「4つの近代化建設」が1980年代の中国に与えた影響を説明しなさい。(400字以内)